

岡山県感染症週報 2013 年 第 29 週 (7 月 15 日～7 月 21 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 29 週 (7/15～7/21) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 27 週 2 類感染症 結核 1 名 (60 代 男)
 5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (60 代 男)
 第 28 週 2 類感染症 結核 2 名 (20 代 男 1 名・女 1 名)
 5 類感染症 急性脳炎 1 名 (幼児 男)
 第 29 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 男)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (50 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- 手足口病は、県全体で 414 名 (定点あたり 6.19 → 7.67 人) の報告があり、前週より増加しました。備前地域 (定点あたり 5.30 人) で、新たに発生レベル 3 となりました。
 ○ヘルパンギーナは、県全体で 264 名 (定点あたり 5.52 → 4.89 人) の報告があり、前週よりやや減少しました。

【第 30 週 速報】

- 重症熱性血小板減少症候群 1 名 (80 代 女) の発生がありました (7 月 23 日)。岡山県では 2 例目の感染確認です。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページをご覧ください。
 ・ [【注意!】岡山県内で『重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)』の発生がありました。](#)
 ・ [ダニが媒介する感染症に注意しましょう。](#)
 ○腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157: 40 代 男) の発生がありました。 (7 月 24 日)

1. [手足口病](#)は、県全体で 414 名 (定点あたり 6.19 → 7.67 人) の報告があり、10 週連続で増加しました。備前地域 (5.30 人) で、定点あたり報告数が 5 人を超えたため、新たに発生レベル 3 となり、県内全ての地域で発生レベルが 3 になりました。詳しくは、『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
2. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で 264 名 (定点あたり 5.52 → 4.89 人) の報告があり、7 週ぶりに、報告数が減少しました。県全体の報告数は減少したものの、備前地域 (8.00 人) では定点あたり 6 人を超えたため、新たに発生レベルが 3 となりました。岡山市、倉敷市では、ひきつづき、発生レベル 3 で推移しています。詳しくは、『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
3. [風しん](#)は、発生報告はありませんでした。岡山県の第 29 週までの報告累計は 71 名となっています。全国の第 28 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 17 倍となる 12,832 名で、ピークは過ぎたと思われるものの、依然、多数の患者が発生しています。詳しくは『[風しん情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↑	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★
感染性胃腸炎	↑	★★	水痘	↑	★
手足口病	↑	★★★★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↑	★★	百日咳	↑	
ヘルパンギーナ	↑	★★★★	流行性耳下腺炎	↑	★
急性出血性結膜炎	↑		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	↑		無菌性髄膜炎	↑	★
マイコプラズマ肺炎	↓		クラミジア肺炎	↑	

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

↑ : 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

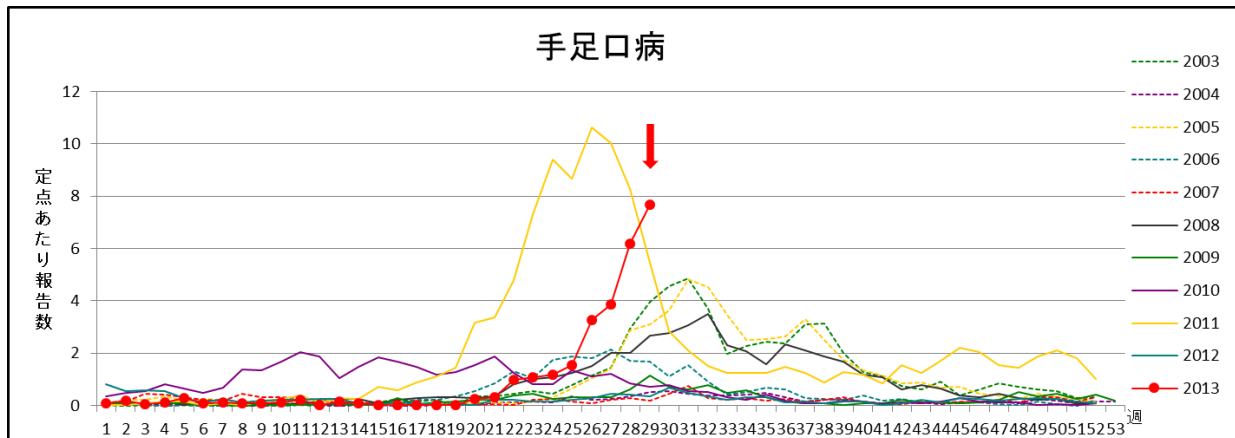
★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

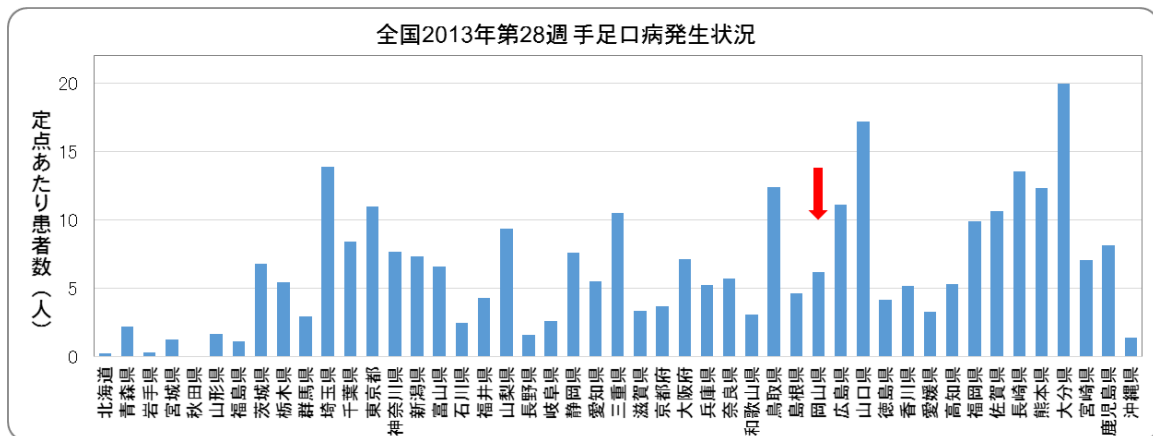
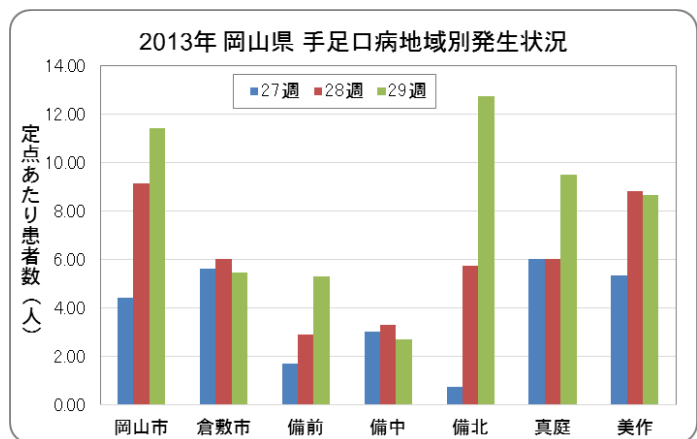
今週の注目感染症

1. 手足口病

岡山県の発生状況グラフ



手足口病は、県全体で414名（定点あたり6.19→7.67人）の報告があり、第20週から連続で増加しています。地域別では、備北地域（12.75人）、岡山市（11.43人）、真庭地域（9.50人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。備前地域（5.30人）で、定点あたり報告数が5人を超えたため、新たに発生レベル3となり、県内全域で、発生レベル3となりました。岡山県の過去10年の発生状況と比較すると、大流行となった2011年に次いで、大きな流行となっています。例年、7月～8月頃に流行のピークを迎えますので、ひきつづき県内の発生状況に注意してください。



全国第28週の発生状況は、定点当たり7.01人で、大分県（19.92人）、山口県（17.15人）、埼玉県（13.90人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県全体の定点あたり報告数に対し、周辺県での定点あたり報告数が高い状況となっていますので、今後の県内の発生状況にも注意が必要です。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。

全国で今年、7月24日までに報告された手足口病からの検出ウイルスは、コクサッキーウイルスA6型（CA6：51%）が最も多く、次いで、重症化する割合が高いと言われているエンテロウイルス71型（EV71：19%）が多くなっています。[（国立感染症研究所）](#)

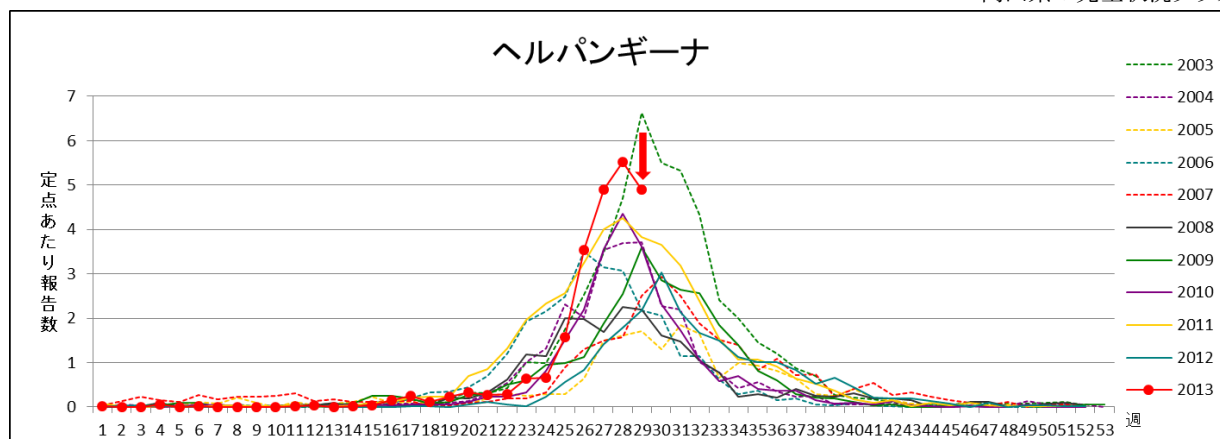
【手足口病とは】

夏に幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスにより、経口感染します。症状は、3～5日の潜伏期の後、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に2～3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行すること等が、有効な感染予防になります。

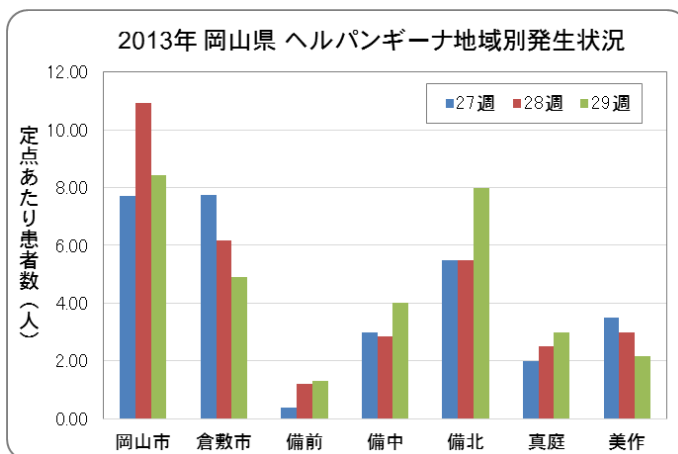
2. ヘルパンギーナ

岡山県の発生状況グラフ

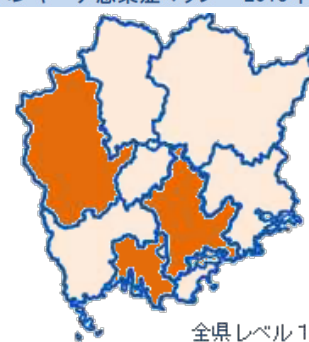


ヘルパンギーナは、県全体で264名（定点あたり5.52 → 4.89人）の報告があり、7週ぶりに報告数が減少しました。地域別に見ると、岡山市（8.43人）、備北地域（8.00人）、倉敷市（4.91人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。備北地域では、定点あたり報告数が6人を超えたため、新たに発生レベル3になりました。流行の始まりが遅かった地域では、今後も報告数が増加することが考えられますので、ひきつづき、発生状況に注意してください。

全国の第28週の発生状況は、定点あたり2.75人で、高知県（6.87人）、熊本県（6.20人）、徳島県（6.09人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は、全国で4番目に定点あたり報告数が多くなっていますので、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。



ヘルパンギーナ感染症マップ 2013年 29週



全県レベル1

レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
6	2	0 6未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

【ヘルパンギーナとは】

夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。A群コクサッキーウイルスなどが原因となります。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスにより、経口感染します。症状は、突然の発熱につづいて、のどが痛くなり、軟口蓋（口腔内の上側奥の柔らかい部分）に直径1～5mmほどの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常、2～4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時の熱性けいれんや、髄膜炎を伴うことがあります。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたりウイルスが排出されることもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行すること等が、有効な感染予防になります。

○手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています。どちらの感染症も、ウイルスに対する特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。また、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる場合がありますので、注意が必要です。

○保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。

○体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

風しん情報

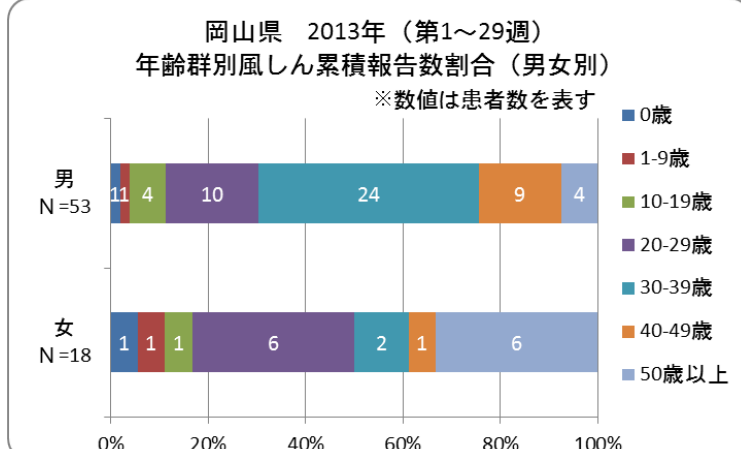
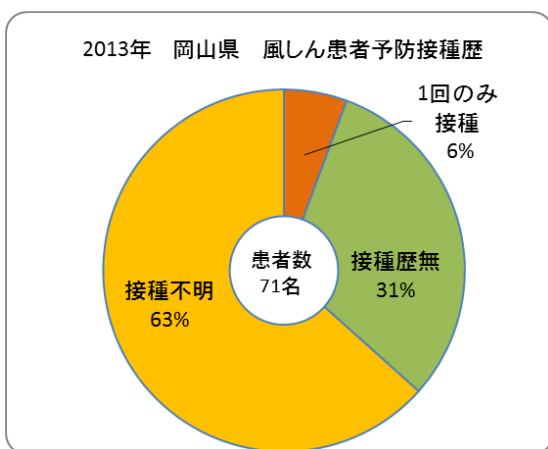
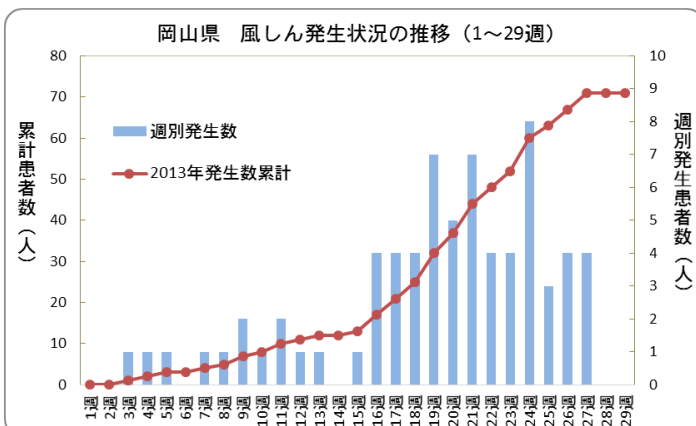
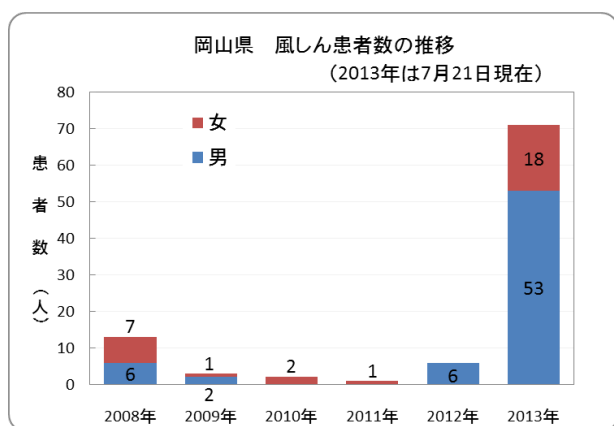
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に多数の患者が発生しています。風しんはせき、くしゃみ等の飛沫により感染します。また、夏休みに入るこれからの時期は、旅行などで人の移動も多くなり、感染の機会が増加します。全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しん Q&A\)](#)

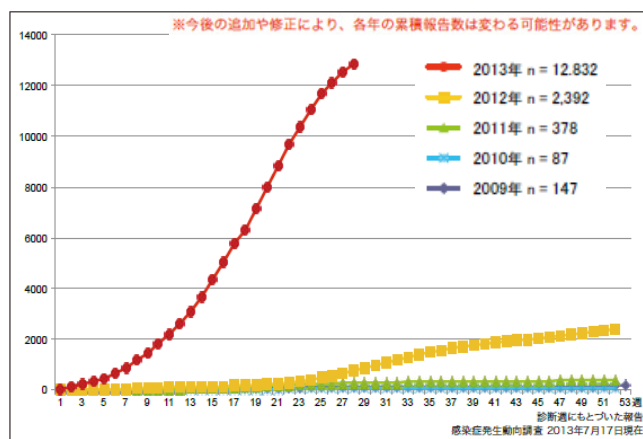
【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、第29週の発生報告はありませんでした。岡山県の第29週までの報告累計は71名となっています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが22名、接種不明が45名、1回の接種が4名でした。



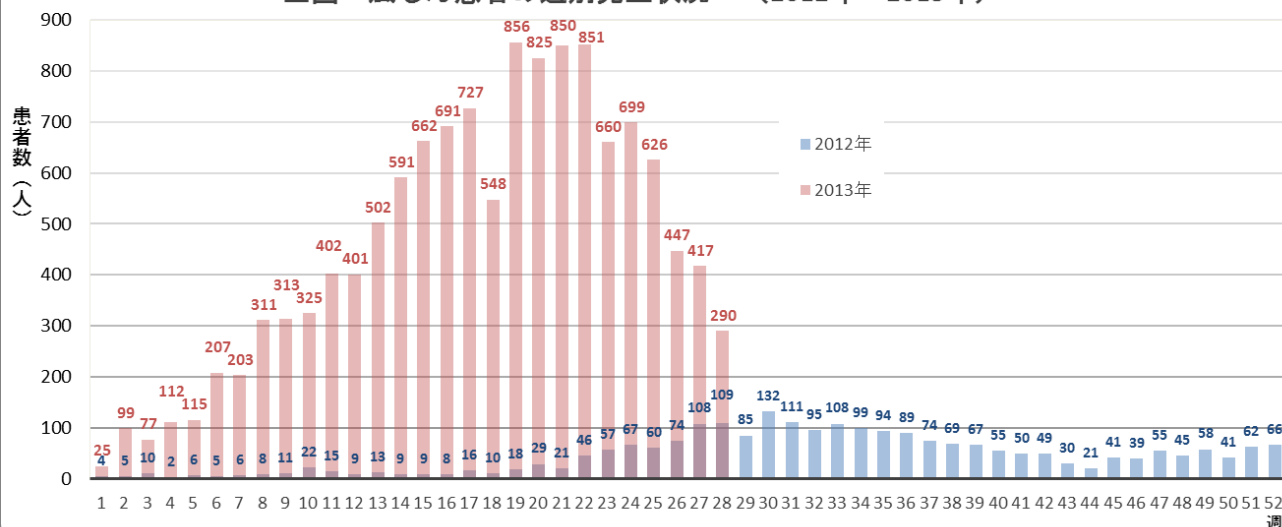
【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第28週までの累計報告数は12,832名であり、ピークは過ぎたと思われるものの、関東地方・近畿地方を中心に、依然、多数の患者が発生しています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が82%を占めています。また女性は、20～30代が57%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかったか、集団接種から個別接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群 (CRS) は、2012年は5名でしたが、2013年は7月10日までに、すでに8名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年 (第1～28週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

全国 風しん患者の週別発生状況 (2012年～2013年)



【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しんの対策も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）を接種することが推奨されています。任意の予防接種者数が、例年に比べて急激に増加したため、今夏以降にMRワクチンが一時的に不足することが懸念されています。MRワクチン安定供給の目途がつくまでの間、任意の予防接種について、

①妊婦の周囲の方

②妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方

①②の方で、「抗体価が十分であると確認できた方」以外の方が、優先して接種を実施できるよう、ご協力をお願いいたします。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種のご予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 29週 (2013/07/15～2013/07/21)

2013年7月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	3	0.06	—	—	1	0.09	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	12	0.22	6	0.43	5	0.45	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	0.48	13	0.93	10	0.91	—	—	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	219	4.06	55	3.93	54	4.91	54	5.40	11	1.57	15	3.75	4	2.00	26	4.33
水痘	38	0.70	13	0.93	6	0.55	9	0.90	2	0.29	3	0.75	1	0.50	4	0.67
手足口病	414	7.67	160	11.43	60	5.45	53	5.30	19	2.71	51	12.75	19	9.50	52	8.67
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	24	0.44	10	0.71	3	0.27	6	0.60	2	0.29	—	—	1	0.50	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	264	4.89	118	8.43	54	4.91	13	1.30	28	4.00	32	8.00	6	3.00	13	2.17
流行性耳下腺炎	8	0.15	2	0.14	—	—	6	0.60	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	4	0.80	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 29週 (2013/07/15～2013/07/21)

2013年7月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	12	0.22	6	0.43	5	0.45	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	0.48	13	0.93	10	0.91	—	—	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	219	4.06	55	3.93	54	4.91	54	5.40	11	1.57	15	3.75	4	2.00	26	4.33
水痘	38	0.70	13	0.93	6	0.55	9	0.90	2	0.29	3	0.75	1	0.50	4	0.67
手足口病	414	7.67	160	11.43	60	5.45	53	5.30	19	2.71	51	12.75	19	9.50	52	8.67
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	264	4.89	118	8.43	54	4.91	13	1.30	28	4.00	32	8.00	6	3.00	13	2.17
流行性耳下腺炎	8	0.15	2	0.14	—	—	6	0.60	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	4	0.80	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第29週 2013/07/15～2013/07/21)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	12	-	-	4	-	1	4	-	-	-	1	-	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	-	1	3	2	1	3	6	3	2	2	-	3	-
感染性胃腸炎	219	7	26	34	18	19	14	17	9	3	7	6	24	4
水痘	38	-	3	5	6	5	5	7	4	1	-	1	1	-
手足口病	414	3	52	172	76	43	27	14	6	6	5	2	4	-
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	24	3	6	14	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	264	2	38	41	45	43	28	20	14	5	6	8	8	-
流行性耳下腺炎	8	-	-	-	-	-	3	-	2	1	-	-	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	1	-	-	-

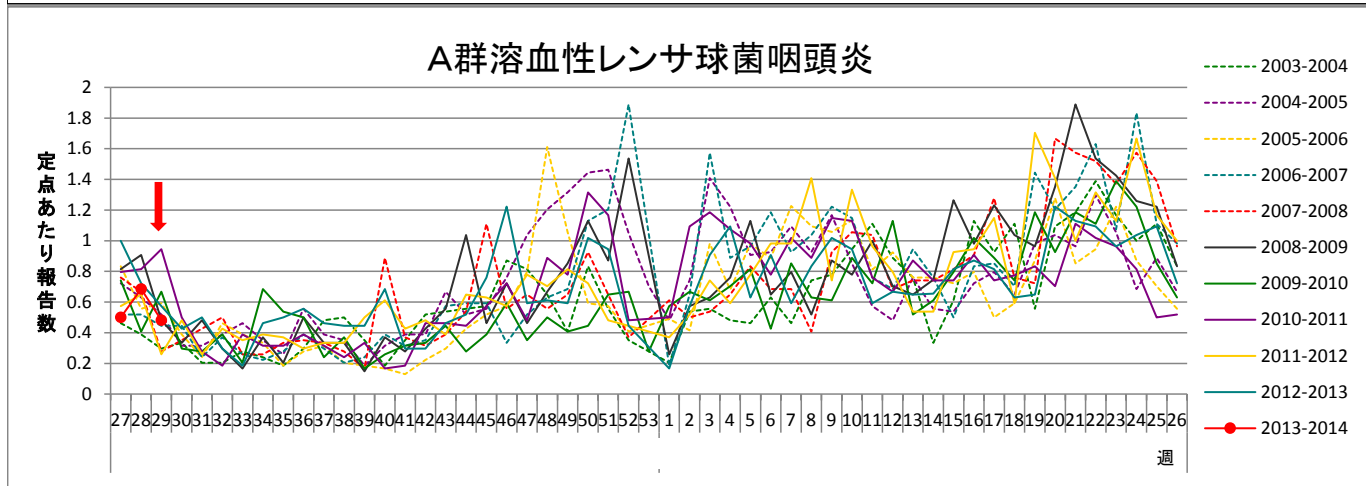
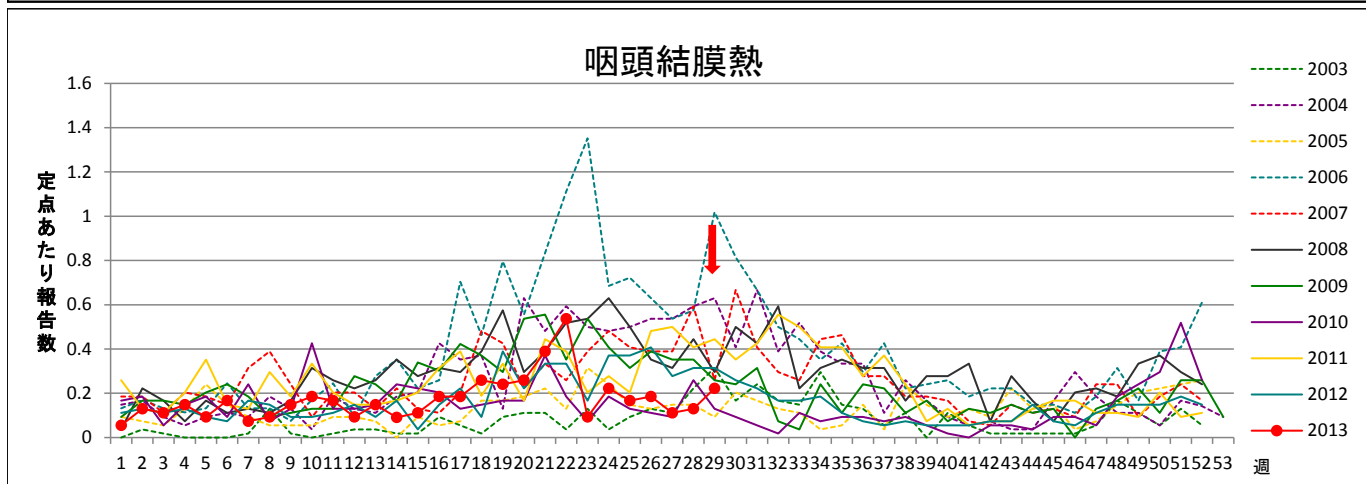
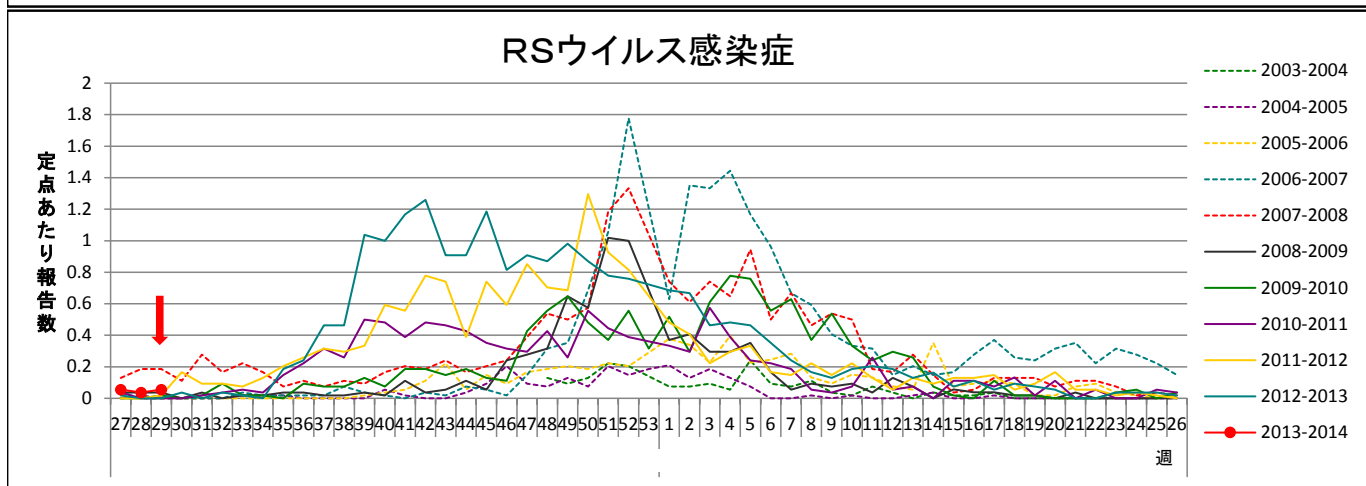
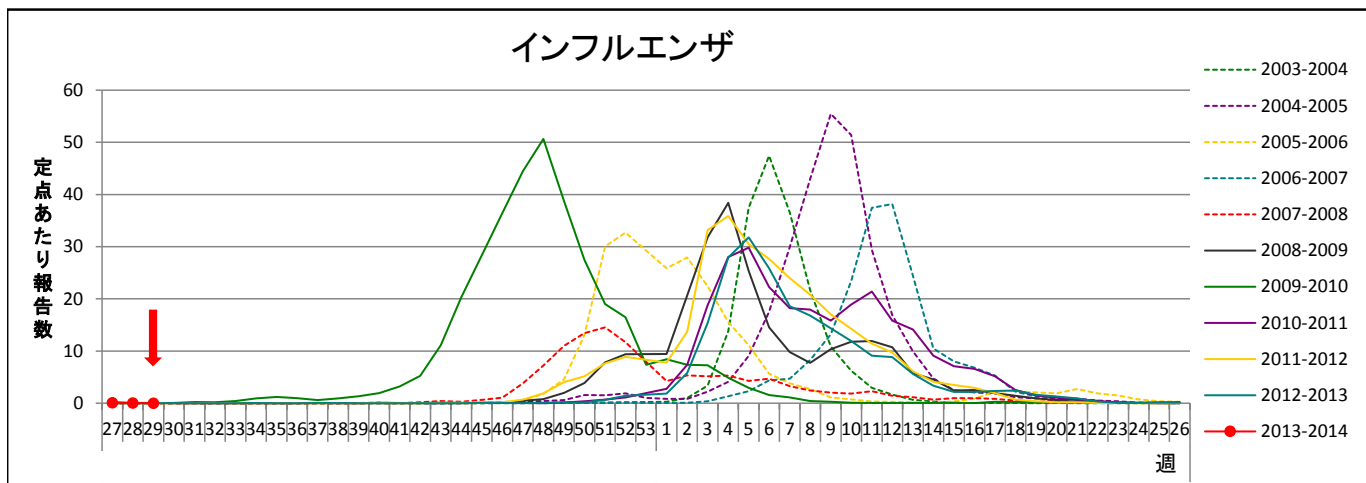
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

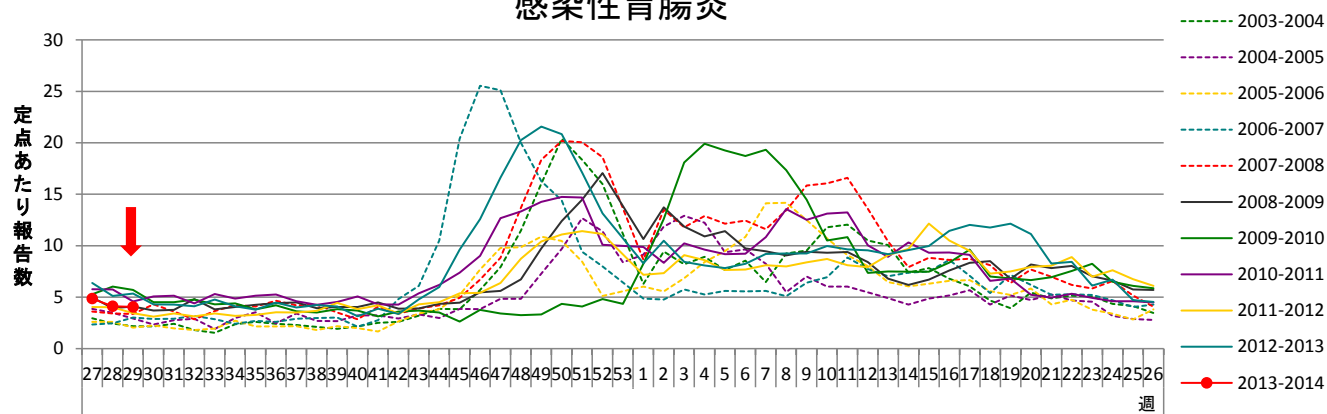
全数把握 感染症患者発生状況

2013 年 29 週

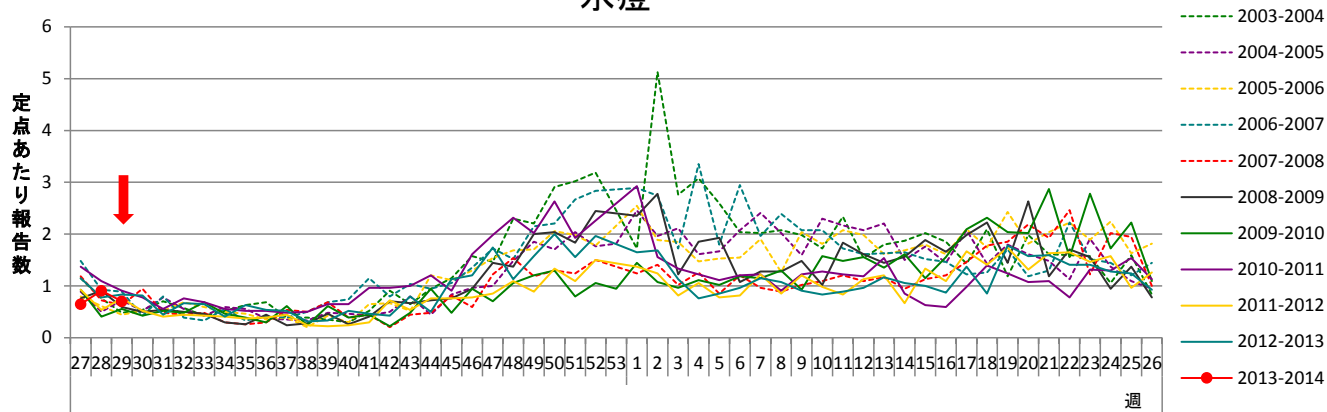
分類	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ベスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	186	478	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	30	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	13	29	レプトスピラ症	-	1	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	7	11	ウイルス性肝炎*3	-	6	7	急性脳炎*4	-	4
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	6	16	ジアルジア症	-	-	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	-
侵襲性髄膜炎菌感染症		-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	10	-	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		-	3	7	破傷風	-	2	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	1	2	風しん	-	71	6	麻しん	-	2	6



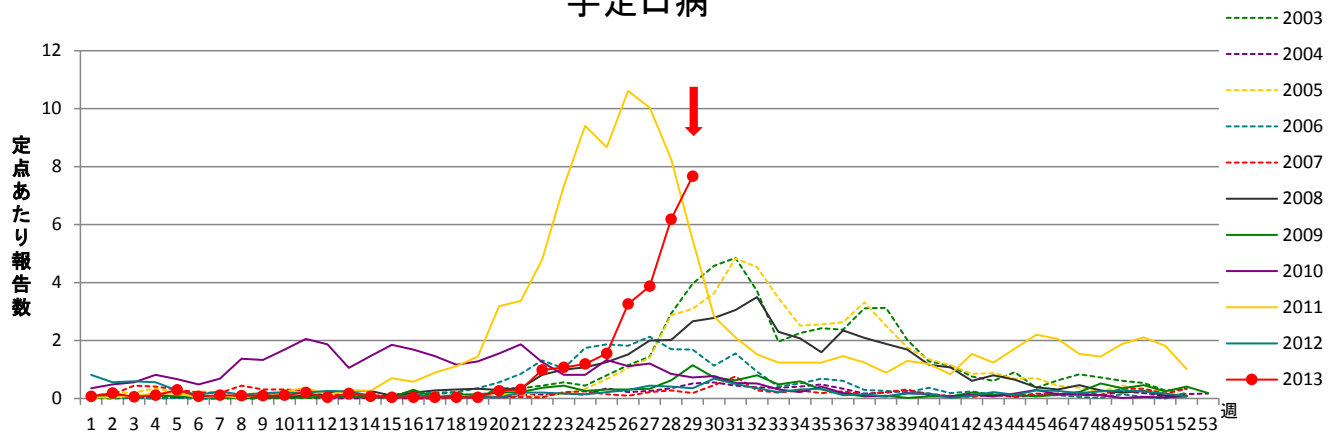
感染性胃腸炎



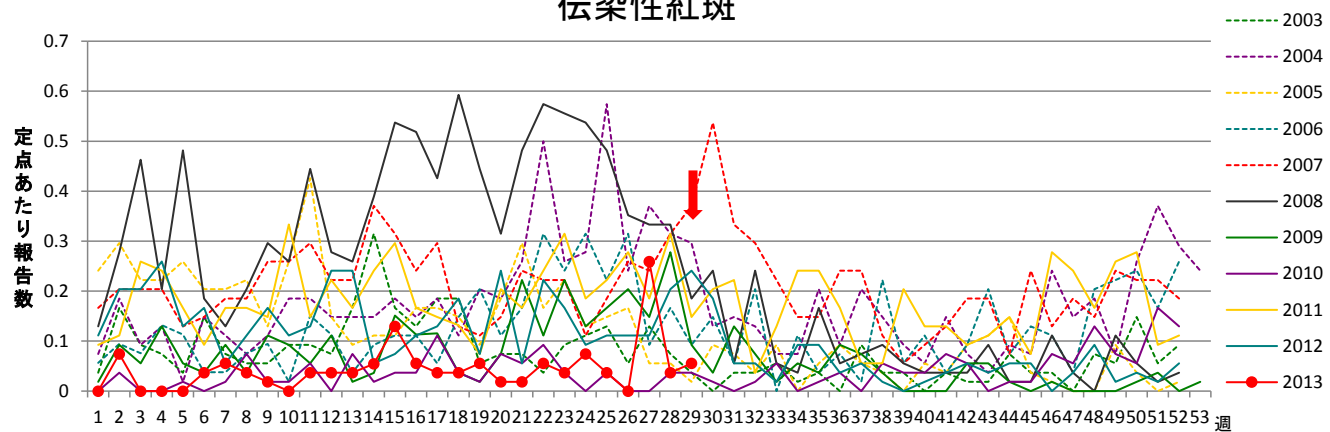
水痘



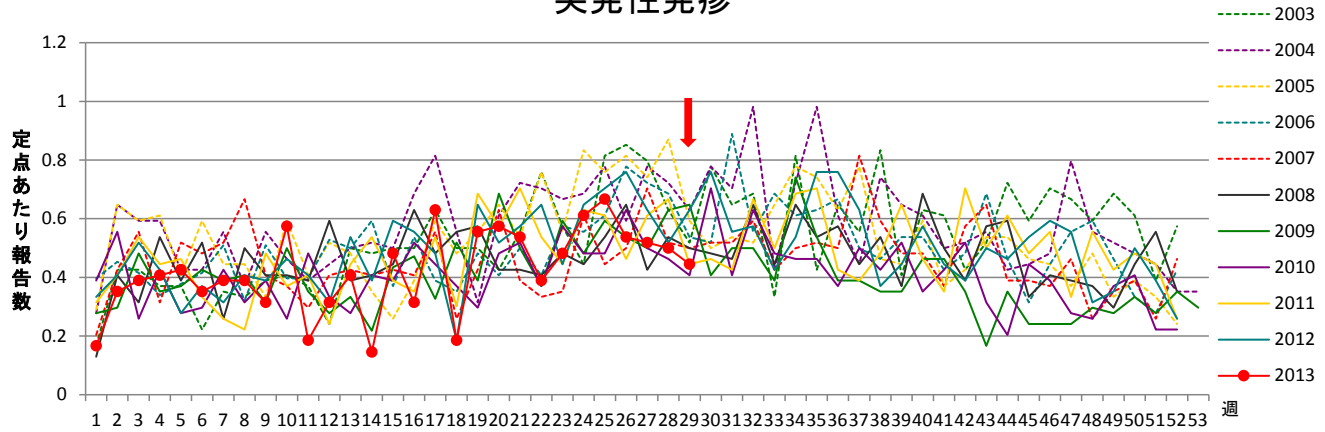
手足口病



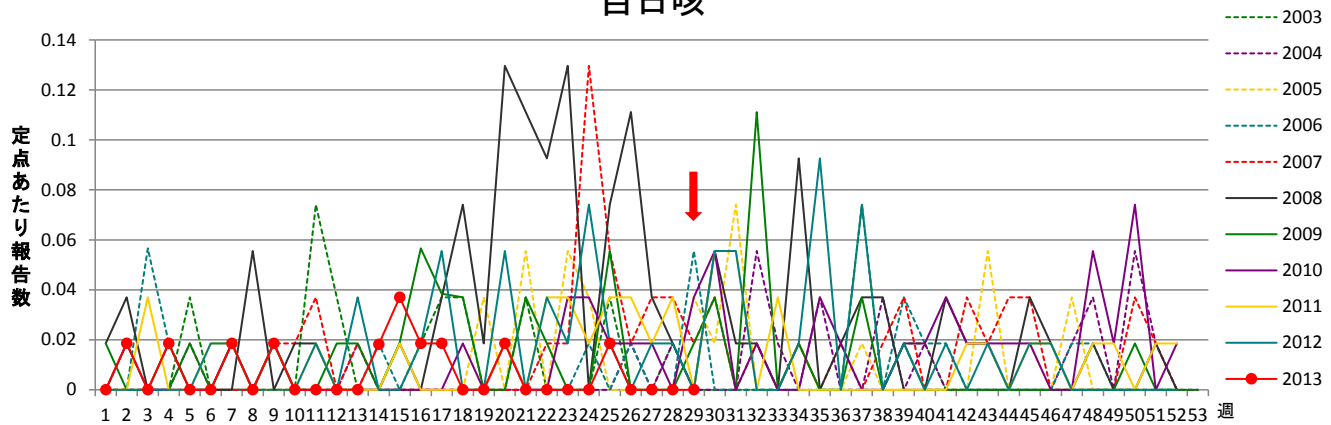
伝染性紅斑



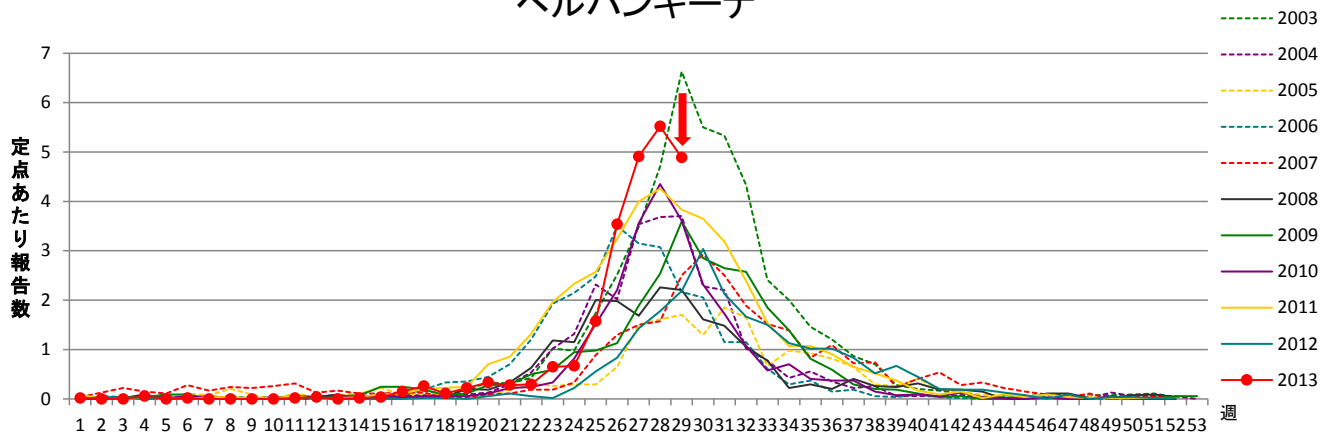
突発性発疹



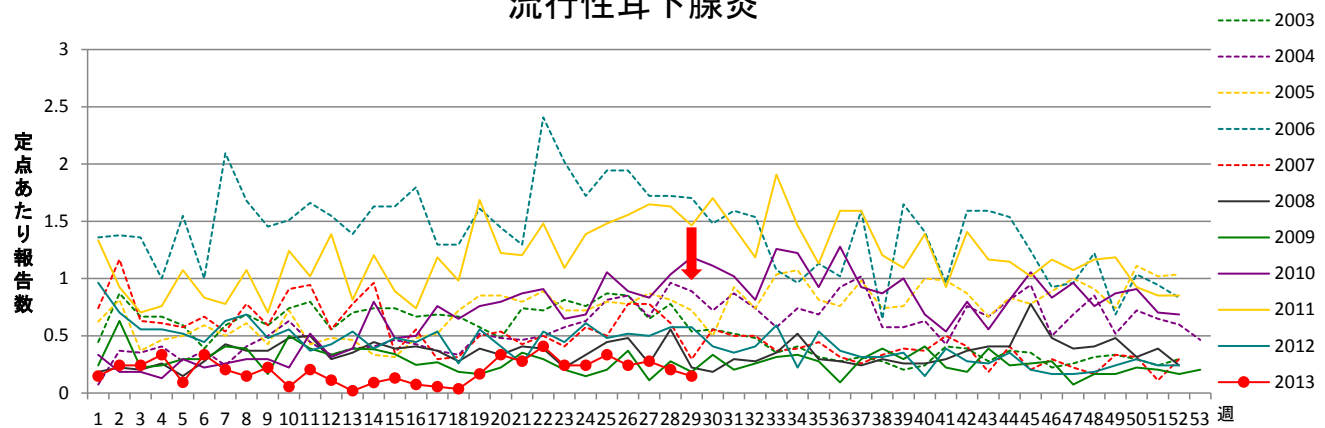
百日咳



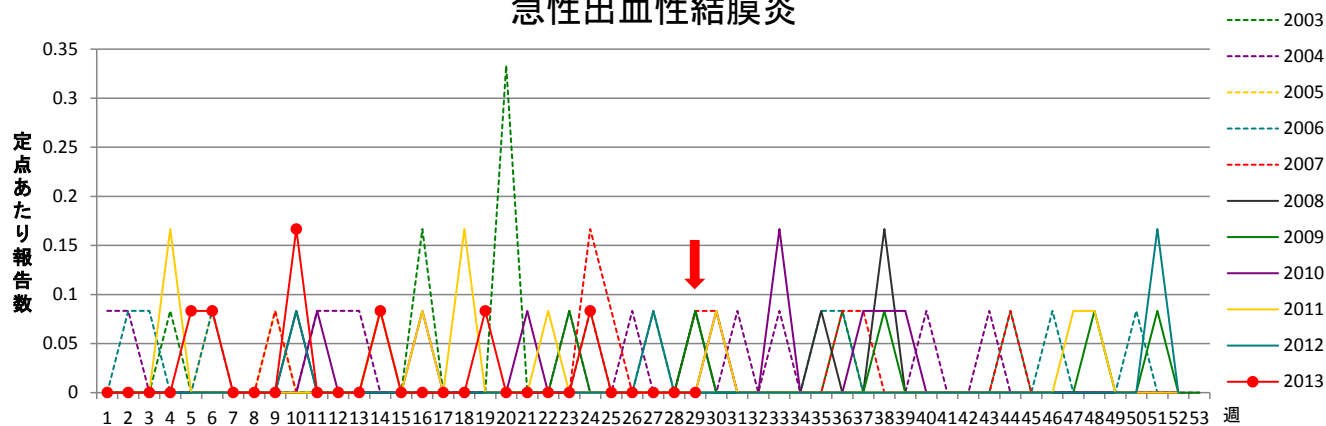
ヘルパンギーナ



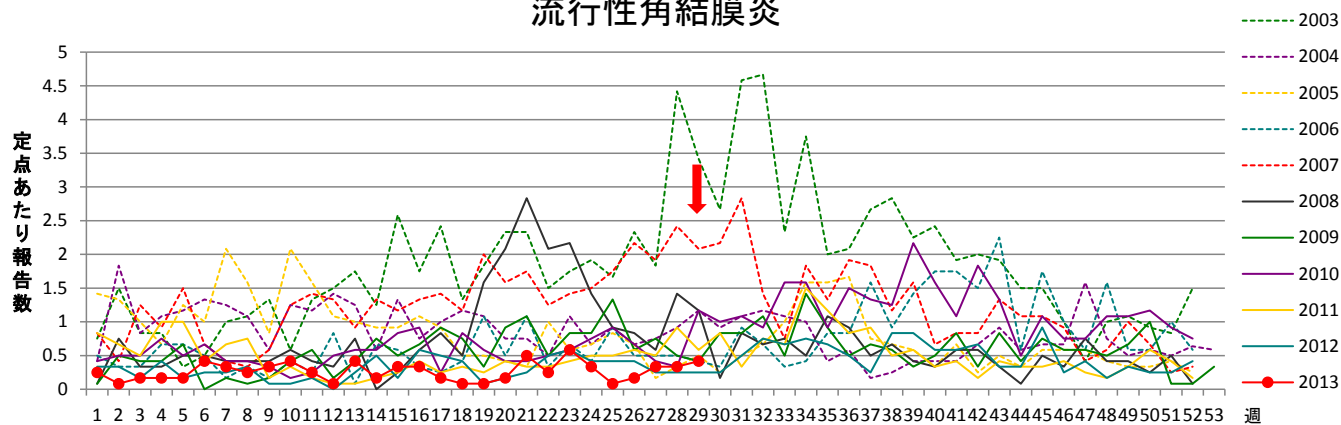
流行性耳下腺炎



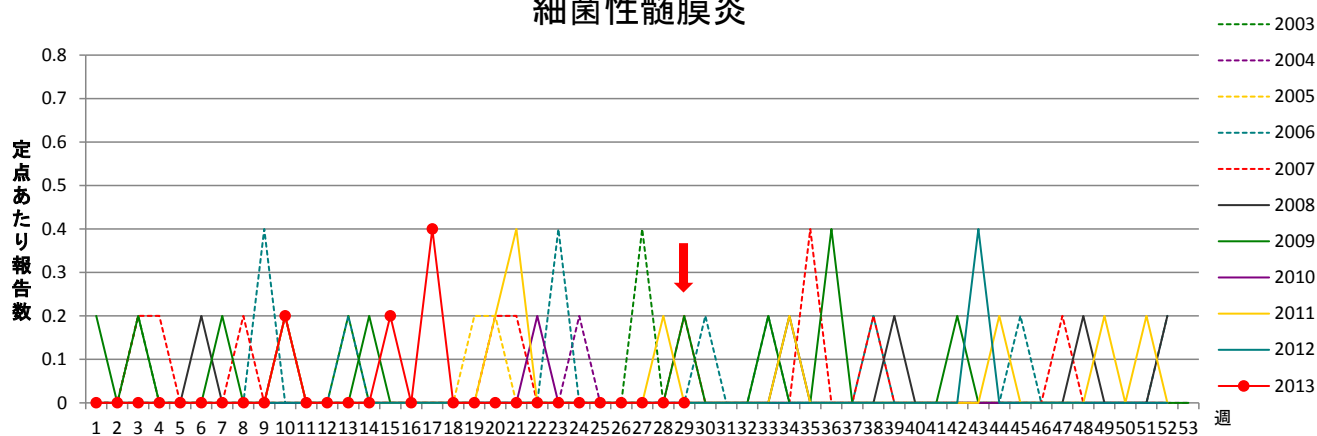
急性出血性結膜炎



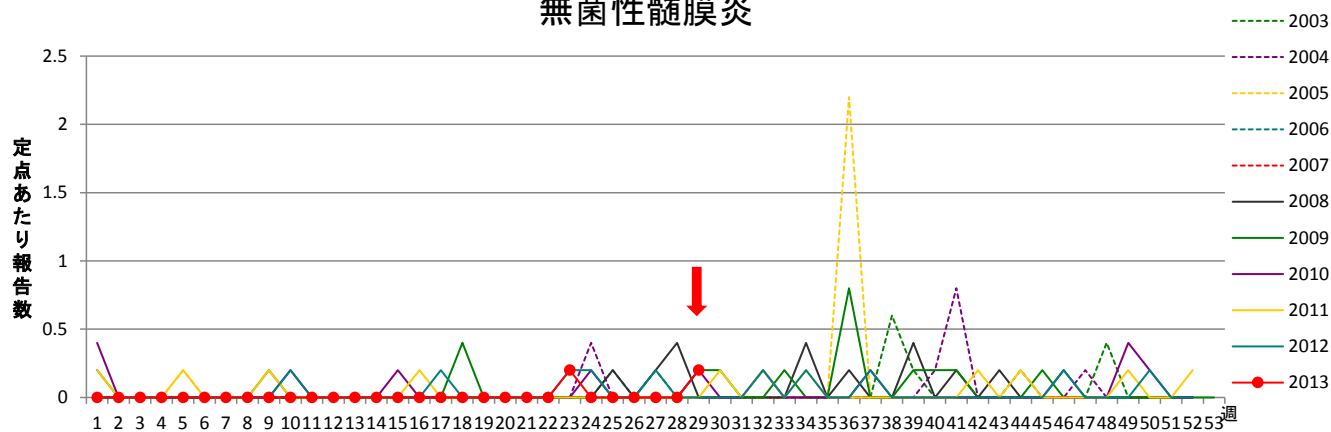
流行性角結膜炎



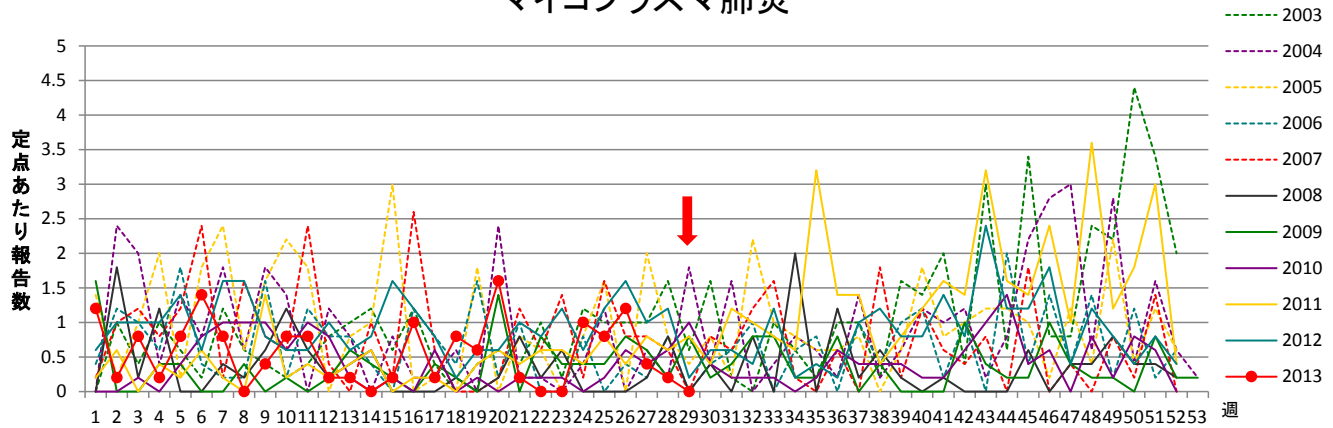
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

